

指導のポイント ④

◎4 合目(形容詞文)

各課の構成と使い方(共通)・・・本冊「テキストガイド」をご覧ください。

I 課 わたしの もちもの

<この課のねらい・CanDo>

- ・自分や友達の持ち物の様子について説明できる。
- ・季節や気候など自然について話ができる。

<先生方へ>

四季のない国から来た子どもたちに日本の四季を教えましょう。形容詞が使えると、会話の幅が広がります。出身国の季節や気候について話題にするのもいいでしょう。

<主な指導文型・語彙・表現>

- ① 「～は、[い形容詞]です。」(様子や感覚を表す「い形容詞(形容詞)」の叙述用法)
- ② 「～は、どうですか。」(様子を尋ねる疑問詞「どう」)

<ポイント>

- ① ・「い形容詞」は国文法の「形容詞」にあたる。
 - ・ この課では、「い形容詞」を述部にして(叙述用法)、人や物事の様子を説明する。この課では、主に体感してわかる「い形容詞」を扱う。

導入例) T: これは、私のかばんです。(苦しそうな顔をして) 重いです。→私のかばんは、重いです。
 - ・ 否定形の変化をしっかりとさえる。「おもい」→「おもくない」(本冊で図解)
 - ・ 反義語がセットで言えるように定着をはかる。

例) 寒い⇔暑い 重い⇔軽い 古い⇔新しい など

暑い⇔暑くない 間違いではないが、「寒い」と言えるようにしたい。
 - ・ 「読みましょう」で初出の「あたたかい」「すずしい」は「あつい」「さむい」と比較して段階的に教えるとわかりやすい。

さむい すずしい あたたかい あつい >
 - ・ 練習問題や読み物に、本文で扱っていない「い形容詞」が使われているので注意。丁寧に教える。

→あたたかい、すずしい、おいしい、黒い *「黒い」色の形容詞は2課で扱う。
- ② 疑問詞「どう」とその答え方を確認する。 例) T: この部屋はどうですか。C: 広いです。

2 課 おとしもの

<この課のねらい・CanDo>

・様々な形容詞の語彙を使い、物の形や色などについて質問したり詳しく説明したりできる。


<先生方へ>

物の形状や様子について説明できるようになると、話せることが多くなり発話も増えるでしょう。身近な物や事柄について話してみましょう。

<主な指導文型・語彙・表現>

- ①「これは、[い形容詞+名詞]です。」(形状や様子を表す「い形容詞(形容詞)」の連体修飾用法)
- ②「どんな～ですか。」(物事の様子や特徴などを尋ねる疑問詞「どんな」)
- ③「[い形容詞]くて、[い形容詞+名詞]です。」(二つの特徴を表す)

<ポイント>

- ① この課では名詞を修飾する「修飾用法」を扱っている。形状や様子を表す「い形容詞」を扱う。
導入例)
T: これは、りんごです。大きいです。→ これは、大きいりんごです。
 - ・ 形容詞の導入では、例示の仕方に気を付ける。例えば「大きい」を導入する時、“大きいりんご”のイラストだけ提示するのではなく、比較できる“小さいりんご”も同時に提示する。
 - ・ 形容詞は反義語を提示すると理解しやすく覚えやすい。
 - ・ 子どもによっては、「長い・短い」「高い・低い」「太い・細い」をすべて「大きい・小さい」という概念で捉えている場合がある(母語の影響もある)ので、具体物を用いて概念理解を確認する。
 - ・ 色の形容詞はこの課で扱っているもののほかに、い形容詞がないものもあるので注意する。(2 合目もういっば⑤参照)
- ② 疑問詞「どんな」とその答え方を確認する。
C: わたしの鉛筆がない!
T: どんな鉛筆ですか?
C: 赤い鉛筆です。…場面を提示するとわかりやすい。
- ③ 形容詞を二つ並列して名詞を修飾する場合「赤くて細い水筒」となる。形の変化に注意する。
(本冊図解参照)「赤い細い水筒」も間違いではないが、ここでは扱わない。

3 課 ドッジボール

<この課のねらい・CanDo>

・体験したことが説明でき、感じたことを表現することができる。

<先生方へ>

子どもたちの表情から、感じたことをどのように表現すればよいのかをその場で教えてあげてください。例えばスポーツをした時に、「楽しい」「くやしい」といった感情を体験し、言葉を覚えることができます。

<主な指導文型・語彙・表現>

- ① 「[い形容詞] かったです。」(「い形容詞」の過去時制)
- ② 「とても～[い形容詞]かったです。」「あまり～[い形容詞]くありません。」(程度を表す副詞)

<ポイント>

- ① 形容詞の形の変化をしっかりおさえる。

「～い(です)」→「～かった(です)」「～くありません(です)」(本冊図解参照)

- ・ 過去という時制がはっきりわかる形で導入する。

導入例) T: きのう遠足でした。楽しかったです。

- ・ この課では感情のい形容詞を扱う。抽象的なものが多いので導入を工夫したい。例えば「うれしい」と「楽しい」、「悲しい」と「寂しい」は違いの説明が難しい。具体的な場面を提示するとわかりやすい。

例) 学校でお楽しみ会をしました。ゲームが楽しかったです。

先生にプレゼントをもらいました。うれしかったです。

ペットの犬が死にました。悲しかったです。

昨日は、家にお父さんもお母さんもいませんでした。私だけでした。寂しかったです。

- ・ 過去形や感情の「い形容詞」を学ぶことで、より内容が豊かな日記が書ける。また、自分の気持ちを言葉で伝えられることは子どもにとって大切なことである。「はなしましょう」や「かきましよう」をおおいに活用し、学んだことの成果を実感させたい。

- ② 程度の副詞は、述部とセットで教える。

例) とても→述部が肯定の形 … とてもおいしかったです。

あまり・全然 →述部が否定の形 … あまりおいしくありません。/ 全然おいしくありません。

もういっぽ⑩ とくちょうを せつ明しましょう

<もういっぽ⑩のねらい・CanDo>

理科の観察文や社会の説明文など、物事の様子や特徴を表す説明がわかる。

<先生方へ>

「～は～が+述語」の形をとる文は、日本語の特徴の一つだといわれています。「二等辺三角形は二つの辺が等しいです。」「夏は気温が高いです。」「松本市は日照時間が長いです。」のように、学習の場面でも多く使われる文型です。

<ポイント>

- ・ 「～は～が+形容詞。」という「は・が文」を扱う。話題となるものの全体を「～は」で、その一部または属するものを「～が」で表す。つまり主題についての説明になる。
- ・ 児童生徒の発話を促す会話例
T: 中国はどんな国ですか。
C: 人が多いです。
T: そうですね、人口が多いですね。
C: 中国は、人口が多いです。

4 課 算数

<この課のねらい・CanDo> ・ものの数や量、状態・形状を比較して表現できる。また質問できる。
<先生方へ> ものの長さや重さ、かさを表す単位のことばを整理しましょう。特に低学年は具体物で体験し、ことばと結び付けることが大切です。学年に応じて、時間や距離、面積などにも応用しましょう。
<主な指導文型・語彙・表現> ① 「～は～より [い形容詞] です。」(比較表現) ② 「～と～と どちらが [い形容詞] ですか。」「～のほうが[い形容詞] です。」(比較表現の質問と答え) ③ 「どれがいちばん [い形容詞] ですか。」「～がいちばん [い形容詞] です。」(三つ以上の比較) ④ 単位の読み方 (かさ、距離、重さ、長さ)
<ポイント> ①②③ いずれも、具体物を示しながら導入する。テキスト本文の「かさ比べ」を実際にやって見せてもよい。 算数の文章や理科・社会のデータの読みとりなど教科学習につながる表現なので、丁寧に学習したい。 ① 「A は B より～です。」 →二つのものを比べる。B を基準にして A がどのような様子か述べる。 ② 「A と B とどちらが～ですか。」 →二つのものを比べて一つを選ばせる疑問文。応答は「A の方が～です。」 ③ 「～(中)で、…が いちばん～です。」 →比べる対象(三つ以上)の中で一番のものを答える表現。 疑問詞「何」と「どれ」の違いを教える。 <u>果物の中で</u> 何が一番好きですか。…カテゴリーの中から選ぶ場合。 <u>この三つの果物の中で</u> どれが一番好きですか。…具体的に範囲が指定されている場合。 ④ 子どもの学年に合わせて、算数で使われる単位の言い方、読み方、書き方も練習する。今学習している内容と関連付けることができれば積極的に扱いたい。

もういっば⑪ 地図を 見ましょう

<もういっば⑪のねらい・CanDo> ・資料から必要な情報を読み取り、比較することができる。(高学年向け)
<先生方へ> 日本語学習で学んだことを積極的に教科学習につなげましょう。
<ポイント> 4 課のポイントで述べたように、学習内容と日本語をつなげる例となる課。学んだ文型や語彙を使って、学習内容の理解につなげる。

5 課 自転車教室

<この課のねらい・CanDo>

- ・「危険」「安全」の言葉の意味がわかり、身の安全を守るために必要な行動がとれる。
- ・周りに危険を伝えられる。

<先生方へ>

子どもを事故から守るため、自転車の乗り方を学ぶ課を設けました。自転車の正しい乗り方を学ぶとともに、通学路の危険箇所や災害時に安全な避難場所はどこか等を確認しましょう。

<主な指導文型・語彙・表現>

- ①「～は、[な形容詞]です。」(状況等を表す「な形容詞(形容動詞)」の叙述用法)
- ②「～方」(物事の方法を表す表現)
- ③「この」「その」「あの」(連体詞)

<ポイント>

- ① ・ 「な形容詞」は国文法の「形容動詞」にあたる。
 - ・ この課では叙述用法を扱う。疑問文は「どうですか。」
導入例) T: (危険な絵を見せて) これは、危険です。
(安全な絵を見せて) これは、どうですか。
C: 安全です。
 - ・ 「な形容詞には」、意味、形など気を付ける必要があるものがいくつもある。語義の抽象度も高い。
例) 「きれいな」…叙述用法の場合「～はきれいです」のようにい形容詞と形が同じになるので気を付ける。
*「きたない」はい形容詞、「きれい」はな形容詞。反義語で品詞が違う。
 - ・ 語の意味や対義語が多様なので気を付ける。
例) 「きれいな」の意味…beautiful と clean
「静かな」の対義語…うるさい(ネガティブ)、にぎやかな(ポジティブ)
- ② 物事の方法を表す表現として「[動詞]+方」
乗り~~ます~~ + 方 = 乗り方
- ③ 名詞に係る指示語「この、その、あの、どの」
導入例) (机の上に、本を何冊も並べて)
T: これは本です。私の本です。→ この本は、私の本です。
どの本が、〇〇さんの本ですか。
C: これ。この本です。

6 課 友だちを しょうかいしましょう

<この課のねらい・CanDo>

・友達のいいところを見つけ、それを言葉で伝えることができる。

<先生方へ>

「元気な」「親切的な」は抽象語で意味がわかりにくい言葉です。具体的にどういうことか、本文のように言葉にして伝えてあげてください。

<主な指導文型・語彙・表現>

「～さんは、[な形容詞+名詞]です。」

(人の様子や性質などを表す「な形容詞(形容動詞)」の連体修飾用法)

<ポイント>

- ・ この課では連体修飾用法を扱う。い形容詞と同様、疑問詞は「どんな」
導入例) T: この人は、A さんです。A さんは、親切です。A さんは、親切な人です。
B さんはどんな人ですか。
C: B さんは、元気な人です。
- ・ 性質や性格を表す言葉は抽象度が高く、概念理解が難しいので、例を複数提示した方がよい。
例) 「親切的な」(絵を見て)…おばあさんの荷物を持ちます。席をゆずります。→ 親切的な人です。

もういっば⑫ がっきを きめましょう

<もういっば⑫のねらい・CanDo>

- ・自分の得手不得手が表現できる。
- ・友達をほめることができる。

<先生方へ>

自分の能力を評価するときには「私は～が上手です」とは言わず、「私は～が得意です」を使います。また、友達の能力を評価するときには「Aさんは～が下手です」とは、失礼なので使わないこともおさえておきましょう。

<主な指導文型・語彙・表現>

- ① 「わたしは、～が得意/苦手/下手 です。」(自身の評価)
「～さんは、～が上手/得意/苦手 です。」(他者の評価)
- ② 「～(だ)からです」(理由を述べる表現)
- ③ 「楽器…リコーダー、ピアノ」(上位語・下位語の概念)

<ポイント>

- ① ・ 評価を表すな形容詞は、助詞「が」をとる。
例) Aさんは、ピアノが上手です。
・ 「上手な」「下手な」の扱いに注意する。「下手な」は、自分や家族以外には使わず、「上手な」はその逆。
(「ことばのつかいかた」表参照) 指導者は事前にしっかり理解しておく必要がある。
例) T:Cさんの先生は、ピアノが上手ですか?
C:いいえ、下手です…×
いいえ、(あまり)上手ではありません…○
- ② 理由を述べる表現。い形容詞、な形容詞の接続に注意する。
い形容詞… おいしいからです。 / な形容詞… 上手だからです。
- ③ 上位語として「楽器」、下位語として「リコーダー」「ピアノ」「たいこ」等を教える。

もういっば⑬ したきりすずめ

<もういっば⑬のねらい・CanDo>

・お話を読んで共感したり楽しんだりすることができる。感想が言える。

<先生方へ>

日本では誰でも知っている「舌切り雀」。日本の昔話を紹介するとともに、文型の理解を確認しましょう。

<ポイント>

- ・ 絵を見ながら読み聞かせをする。紙芝居のようにしてもよい。まずはあらすじを捉え、どんな話だったか子どもに話をさせてみる。
- ・ 最後の読解問題で、疑問詞とともに内容理解の確認をする。設問に対して適切な文で答えることを教える。

例) T: おじいさんはどうしてすずめをさがしましたか。

C: かなしかったからです。

- ・ 「大きいのがほしい」=「大きいつづらがほしい」 名詞化の「の」について教える。

導入例) (机上に何本か鉛筆を並べる。)

T: これは、わたしの鉛筆です。あれも、わたしのです。

〇〇さんのは、どれですか。

C: これです。わたしのです。

4合目のふりかえり

・疑問詞に呼応する答え方を身に付けさせたい。自分事として答えられるよう、子どもの生活に即したQ&Aを心がけてほしい。

例) T: 〇〇さん、テストはどうでしたか。 C: 少し難しかったです。

T: 〇〇さんの隣の友達はどうな人ですか。 C: とても親切な人です。

・練習問題は、問題形式に慣れて自力でできるようになるまで、指導者が一緒に取り組む。